

簡易版ティーチング・ポートフォリオ

2024. 4. 22

青森中央短期大学 幼児保育学科

畑山朗詠

1. 教育の責任

私は青森中央短期大学幼児保育学科に所属し、主に幼稚園教諭免許及び保育士資格取得にかかわる科目を担当している。担当科目は以下の通りである。

科目名 (対象学年)	概要
郷土と文化 (1 年前期)	郷土の文化について学ぶとともに、青森ねぶた祭に参加し郷土文化に対する関心を高める科目である。 卒業必修科目である。
教育実習 (1 年前期～2 年後期)	教育者としての在り方や、幼稚園教諭の仕事内容の理解、実習を行うにあたっての基本的なマナーなどについて学ぶ科目である。実習の事前、事後指導も行う。 幼稚園教諭免許取得のための必須科目である。
保育所実習 I・II (1 年後期、2 年後期)	保育士を目指そうとする者が保育所等において実習を行い、保育士の役割と職務について実践現場での体験を通して理解を深める科目である。各科目で学んできた内容を結び付け、実践現場で活用したり応用したりすることが求められる。 保育士資格取得のための必須科目である。
保育実習指導 I・II (1 年前期～2 年後期)	保育実習での実習を円滑に進めていくための知識、技術を身につけ、学習内容や自己課題を明確にする科目である。 保育士資格取得のための必須科目である。
教育方法論 (2 年後期)	幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける科目である。 卒業必修及び、幼稚園教諭免許取得のための必須科目である。
特別研究 (2 年前期～2 年後期)	個人または 3 人以内のメンバーの共同で、保育にかかわるテーマを設定し、調査、分析、検討をしながら課題研究に取り組む科目である。論文を作成し、資料を用いりながら発表を行う。 卒業必修及び、保育士資格取得のための必修科目である。

その他の教育活動

➤ クラスアドバイザー

1年生のクラスアドバイザーとして、学生が安心して学生生活を送れるよう、個人面談の実施や学生相談に応じた。

➤ スマイルチャレンジ

日本サッカー協会公認キッズリーダー資格を取得した学生、または取得を目指す学生が、その後も継続して実践力や応用力を養えるよう、附属幼稚園の子どもを対象に継続して実践指導を行っている。

2. 教育の理念

本学科では、「自他に対する人間愛を土台として、より善く生きようとする子どもとその保護者の成長を支え社会に貢献する保育者」を育成することを教育の目的として掲げている。

上記の教育目標の他、学生には「相手の気持ちに寄り添い、相手の素敵などころをたくさん見つけることができる」、「自己を客観的に振り返り、省察し、常に学び続けることができる」保育者になってほしいと考えている。保育者は子どもだけでなく、子どもの保護者や地域の方、同じ職場で働く同僚など、様々な人とかかわる職業である。保育者として人とかかわるうえで、感じ方や考え方は人それぞれであること、そしてそれを認め合いながらより良い方向を向いていくことが大切であると考えている。また、子どもの成長や保護者を支える者として、自分の経験や感覚だけで物事を捉えるのではなく、「なぜそのようになったのか」「なぜそうする必要があるのか」を常に考える必要がある。保育者はそれまでに培ってきた経験や感覚もちろん大切だが、様々な視点から物事を捉え、目の前にいる相手とどうかかわっていくかを判断していかなければならない。目の前のことから学び、多様な視点を持ち、常に自らを省みることができる保育者の育成を目指し、自分自身も学生と向き合っていきたいと考えている。

3. 教育の方法

実習関連の授業においては、実習期間だけではない、実習前～実習中～実習後といった過程の中での学びを重視している。実習前は実習に向かう姿勢や自己課題の明確化、具体的な目標設定を行い、実習後は自己評価、次への課題設定などの指導を行っている。また1年次の学外実習前に、学生が子どもたちと定期的にかかわり、具体的な子どものかかわりや姿をイメージできるよう、保育体験活動を実施している。

講義科目においては、学生がより実際の子どもの姿や様子をイメージして保育方法や指導法について考えられるよう、視聴覚教材を用いたり、筆者が保育現場で働いていた際の具体的なエピソードなどを交えたりしながら伝えるように心がけている。さらに保育者を目指すうえで多様な視点を持つことができるよう、グループワークを積極

的に取り入れている。授業を通して学生に伝えたい内容が、学生が耳から聞くだけでなく身をもって感じることができるような内容のワークを取り入れ、様々な視点に気付くことができるよう設定している。

4. 教育の成果

講義科目の授業評価アンケートにおいて、ほとんどの項目の評価が 4.5 を超えていた。ただ、「自ら進んで課題を発見し、探求する力が身につきましたか」の項目は、他の項目の評価よりも低い点数となっていた。また、一週間あたりの平均勉強時間では、半数の学生が 30 分未満という結果になっていた。これらのことから、学生の学習意欲をさらに高め、自ら課題を発見、解決しようとする力を養えるよう、授業の方法や工夫を模索していきたい。

5. 今後の目標

- 授業や学生指導を行うにあたって、自分自身も保育者養成における専門的知識や技術を向上させるために精進する。
- 認定絵本士養成講座の開設にあたって、絵本に関する専門的な知識や技能、感性を高め、保育における絵本と子どものかかわりについての理解を深める。
- 学生が自信と誇りをもって保育者という職業に就けるよう、また保育者という職業に興味をもっている小中学生、高校生などに向けても、保育者の魅力について発信していきたい。